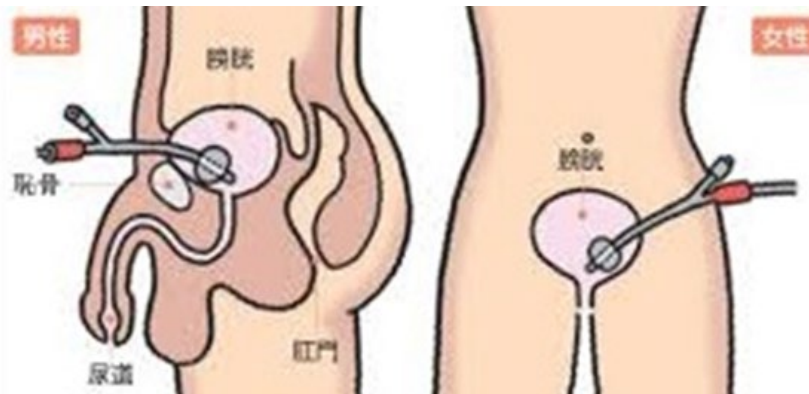




膀胱瘻造設

概要・目的：

何らかの原因(前立腺肥大症、神経因性膀胱、腫瘍、外傷、炎症、手術など)で尿道が閉塞したり、膀胱の収縮力がなくなったりすると、まったく尿を出すことができない状態(尿閉)になることがあります。著しい苦痛をともない、生命をおびやかす可能性もあるため、すみやかにこの状態を改善する必要があります。一般的には尿道より尿を出すための管(尿道カテーテル)を入れますが、それが難しい場合には膀胱瘻として、尿を出すための管(膀胱瘻カテーテル)を下腹部より直接膀胱に挿入する必要があります。



方法：

- ✓ 治療前後に点滴を開始します。感染予防のため、抗生剤の点滴や内服を行う場合があります。
- ✓ 治療は救急外来、病棟、手術室もしくはレントゲンの部屋で仰向けで行います。治療時間は 30 分程度です。
- ✓ 下腹部(恥骨上縁より 1~2cm)に局所麻酔をした後、専用のセットを用いカテーテルを挿入します。
- ✓ 治療終了後は麻酔がさめるまでベット上安静が必要です。
- ✓ 以下のような場合には膀胱瘻カテーテルが挿入できない場合があります。
 - 1) 膀胱の拡張が不十分で針での穿刺が困難な場合。
 - 2) 患者さんの状態により治療に十分な体位がとれない場合(脊椎側弯症、亀背など)。
 - 3) 膀胱の変形が著しい場合。

このような場合には、後日再度治療を行うか、もしくは別の治療を行う必要があります。

合併症(副作用・偶発症)について：

- 1) 出血:膀胱に針を刺すことにより、膀胱からのわずかな出血(特に血尿)はすべての方にみられます。通常は問題ありませんが、抗血小板薬の治療が必要な場合は血尿の程度が強くなります。その際には輸血や追加の処置(血腫除去、止血術)が必要になることがあります。
- 2) 臓器の損傷:治療時の操作により周囲の臓器(腸、腹膜、血管、尿管など)に傷がつくことがあります。程度により追加の処置や開腹手術を行うことがありますが、このような場合は極めて稀です。

3) 術後、尿路感染症により発熱が生じることがあります。

他の治療選択肢・代替医療について：

導尿、尿道カテーテル留置があります。ご不明な点をご理解を深めて頂けるようにご質問下さい。

以上のことを十分理解した上でこの治療を受けてください（中止はいつでも可能です）。

セカンドオピニオン・自由意思による治療の同意とその撤回・ご本人の自己決定権について：

ご不明な点をご理解を深めて頂けるようにご質問下さい。最終的な検査・治療方針の決定は患者さんご本人やご家族の協力によってなされ、そのためにもセカンドオピニオンを得る機会があります。また、予定される検査・治療に同意しない場合でも一切不利益をうけることはありません。また治療を開始した後でも、考えが変わった場合にはいつでも同意を取り下げることができます。この場合も、今後の治療や看護などの診療内容に不利益になることはありません。

以上の説明に関してご不明な点は医師、看護師にお尋ねください。

説明日 @SYSDATE

同愛記念病院 @PATIENTFORMALSECTIONNAME

説明医師： @ACTIVEUSERNAME 印またはサイン 同席者： _____

病名(診断名) : 排尿障害、神経因性膀胱

手術：膀胱瘻造設術

手術日 : 年 月 日

私は、膀胱瘻造設術の目的、方法および副作用・合併症について、上記の内容を読み、また医師の説明により十分に理解しましたので、上記の検査・治療を受けることに同意します。

なお、緊急の処置・治療を行う必要が生じた場合には、適宜施行されることについて同意します。

同愛記念病院 院長 殿

年 月 日

本人氏名 _____ 印 ※署名がある場合は押印不要

家族等氏名 _____ 印（本人との続柄 _____）

※本人の署名がある場合は家族等の署名は不要 ※本人が署名不能な場合や未成年者の場合には家族等の署名が必要